

## 第59回河北文化賞を受賞された星野次汪先生について

1. 2008年「アグリビジネス創出フェア」におけるプレゼンテーションしている星野先生。「当農場は量で勝負できないので質で勝負をする。物語のある、もの作りを目指したい」と語られた。



2. 星野先生は2009年9月に行われた全国大学農場協議会を主宰し、会議、現地研修を企画、運営された。



現地研修における「ヒエ栽培状況」の見学風景

3. モチ性ヒエ（長十郎もち）の命名由来。「80歳をゆうに超えた老人が10aのヒエ畑で草むしりしながら働いていた」その老人の名前は長十郎氏であった。

4. 農場での星野先生は、研究教育のほか、農場一般公開を3年間、2009年からは農学部内の「森の駅ポランハウス」において研究活動パネル展示、農場生産物、加工品販売の立案、他に農業塾等公開講座も企画、運営された。また、いわてアグリフロンティアスクールの副校長として、自立した農業人の育成にも尽力されております。



「森の駅ポランハウス」での展示、販売風景  
岩手大学が掲げる「共生の時代のパートナー」にもあるように地域に根差した活動を推し進めてきた星野先生の「河北文化賞受賞」をお祝い申し上げます。